

実践例

「安全な登下校について考えよう」

～防犯教室等の活用～

各教科等における安全教育

<正しい知識の習得>

生活科

「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」

- ・ 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

<思考力・判断力・表現力の育成>

特別の教科 道徳

【生命の尊さ】

- ・ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

***自分の命、友達の命を大切にするためにできることについて考えさせる。**

日常的な安全教育

「朝の会・帰りの会」等で

<心の状態に合わせて>

- ・ 連休前や連休後、行事の前後など、気持ちが浮き足だっているような時には、登下校の約束等について再度確認する。

<繰り返し指導>

<事件・事故を受けて>

- ・ 近隣での不審者情報等が入った際には、具体的な注意事項、対応方法等を確認する。
- ・ ニュース等で事件・事故が報じられた際には、自分たちの行動を振り返り、同じような被害に遭わないよう指導する。

防犯教室等(警察や防犯協会などとの連携)

定期的な安全教育

<危険予測・危機回避能力の育成>

(例) <「**いか・の・お・す・し**」で身を守ろう> **ロール・プレイング**等で、実践力を身につける
知らない人に声をかけられたら

- いか:** ついていかない (名前を呼ばれてもついて行かない)
- の:** さそいや車に**の**らない (その車が進む方向と逆の方向に逃げる)
- お:** **おお**声で**さけぶ** (連れて行かれそうになったら大きな声で叫ぶ、防犯ブザーを鳴らす)
- す:** **す**ぐに**逃げる** (「こども110番の家」やお店など、大人のいるところへ逃げる)
- し:** **し**らせる (どんなことがあったのが、家の人や先生に知らせる)

***いざというときに使えるように、防犯ブザーの正しい使い方を練習しておく。**

低学年の児童には、具体的に危険な場面をイメージさせ、その対応方法を学ばせる必要があるため、イラストや写真を用いた「**危険予知トレーニング**」や、防犯教室等で「**ロール・プレイング**」などを活用した訓練を行うことが効果的である。また、**保護者も交えた防犯教室**を行うと、学校と家庭と連携した指導が可能となり、より指導効果が期待できる。

ねらい 「自分の体も他の人の体も大切であることを理解できるようにする」

指導の
ポイント

自分と他の人を大切にする態度を育てる

自分と他の人の「大切なところ」を守るルールを理解し、行動できるようにする。

自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法を身に付けられるようにする。

目指す
子どもの姿

性暴力から

自分や他の人の身を守る

○自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法等を理解する

学習の
ポイント

大切な体	体の大切なところ	身を守るための方法
<ul style="list-style-type: none"> 自分の体は自分だけの大切なものであることを理解する。 他の人の体も大切であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と他の人の大切なところを理解するとともに、大切なところを守るルールを理解する。 他の人の大切なところを、見たり、触ったりしてはいけないことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになる場面を考える。 嫌な気持ちになったときは、「嫌だと言う」、「逃げる」、「安心できる大人に相談する」行動を取れるようにする。 自分と他の人を大切にする態度を身に付ける。

自助・共助
のポイント

「嫌だ」と言う、にげる、安心できる大人に相談

嫌な気持ちを声に出し、伝える

嫌な思いをしている人を見かけたら、大人に知らせる

学習支援のポイント

- 具体的な場面がイメージできるように、「生命(いのち)の安全教育(小学校(低・中学年/特別支援学校))」(文部科学省：https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html)の教材を活用する。
- キーワードとなる言葉(例：じぶんのからだはじぶんだけのものでとてもたいせつ)を用いて、授業の内容を振り返りやすくする。
- 自分だけの大切なところについては、水着のイラストを用いて説明する等、児童が視覚的にイメージしやすいようにするとともに、児童の印象に残るようにする。

ねらい 「人との距離感を理解し、状況に合わせて意思決定と行動ができるようにする」

指導の
ポイント

「人との距離感」や「SNS等の危険性」

心と体には距離感があるという認識を身に付け、他の人の気持ちを尊重した意思決定と行動選択ができるようにする。

SNS等で見えない相手とつながることの危険性について考え、安全な意思決定と行動選択ができるようにする。

目指す
子どもの姿

心と体には距離感があることを認識し

よりよい人間関係を構築する

- 自分を守り他の人を尊重するための心と体の距離感や、距離感が守られないときの対応方法を理解する
- SNS等で見えない相手とつながる危険性を理解する

学習の
ポイント

人との距離感	SNS等を使用するとき	よりよい人間関係の築き方
<ul style="list-style-type: none"> ・他の人とは心と体の距離感があり、大切にすることが必要であることを理解する。 <p>【距離感とは…】</p> <p>自分の心と体は、自分だけのものであり、他の人も同様であること。互いに心と体を尊重できているかを確認するための言葉を「距離感」とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSにおいて、見えない相手とつながることの危険性を理解する。 ・事例を通して、SNS等を介して性暴力被害が起きる危険性があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人との距離感が守られないときに取るべき行動を知るとともに、相談方法を身に付ける。 ・自分と相手を大切にし、良好な関係性を築くためにはどうしたらよいか考える。

自助・共助
のポイント

「嫌だ」と言う、離れる、安心できる大人に相談

嫌な気持ちを声に出し、伝える

嫌な思いをしている人を見かけたら、大人に知らせる

指導上の留意点

- ・自分と他の人の大切なところを守るルールを確認し、日常生活の場面を想定した事例をとおして、自分を守り他の人を尊重するために心と体の距離感があることや、距離感が守られないときの対応方法、SNSの危険性について指導する。
- ・実際の性暴力においては、水着で隠れる部分への接触だけでなく、体を撫でる、顔にキスをするといった行為が多いことを念頭に、「水着で隠れる部分」のみが大事であるという伝え方にならないよう注意する。

実践例 自分や他の人の体を大切にするためにできることを考えよう

<正しい知識の習得>

各教科等における安全教育

<思考力・判断力の育成>

体育(保健)

育ちゆく体とわたし

- ・ 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。
- ・ 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

特別の教科 道徳

[親切・思いやり]

- ・ 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

[友情・信頼]

- ・ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

「朝の会・帰りの会」等で

日常的な安全教育

<繰り返し指導>

- ・ 近隣で不審者情報などが入った際には、具体的な注意事項、対応方法を確認する。
- ・ 自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときには、すぐに「安心できる大人」に相談することを伝える。
- ・ 児童の間でスカートめくりやズボン下ろし等が行われている場面を見かけたときは、そうした行為も性暴力につながる可能性があることを念頭に、スカートめくりやズボン下ろし等も嫌な触り方／触られ方であることを伝え、指導する。

定期的な安全教育

学級活動

- ・ 学級や学校の生活において互いのよさを見つけ、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。
- ・ 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

指導の際に、文部科学省作成の「生命(いのち)の安全教育」のスライド教材や動画教材を活用することで、より効果的に学習を進めることができる。

【文部科学省作成資料 「生命(いのち)の安全教育」】

https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html